

神眼 ~神々に与えられし不思議な力~

神眼取得希望者

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

これは、神々に与えられし不思議な力と共に
生み出される様々な物語。

宇宙の存在する様々な星に住む民たちは
魔術、剣術、武術などの力を駆使し
今までもこれからも戦っていくだろう。

これらの力とは別に存在する謎の力
それは何のために作られたのか：

いつか明かされる時が来ることを願おう。
物語は今 幕を開ける…!!

第1話 「黒き者誕生」

目

次

第1話 「黒き者誕生」

地球の北アメリカ大陸に存在するジョトム王国にある赤ん坊が生まれようとしていた。

「ジョトム王国 ムールト公園」

公園の中には少年2人。少女1人が居た。

カル「お前、兄になるんだってな」

フローズ「ああそなんだもうすぐ病院へ行かなければならぬ」

公園にいたのはカル・ファイルドと

和国人とメリカ人のハーフである果実野美爛。

そしてジョトム王国の国王の息子である

フローズ・アイス・ジョトム。

つまり王子というわけだが普通の子供たちと同じように扱われているジョトム王国の国王は

王家だろうが何だろうが平等に扱うのだ。

そして国王の元に二人目の子供が生まれようとしていた。

ムールト公園にある老人がホースカーと共に

向かつてきた。その老人の名前は

セバ・スチア。国王が子供のころからジョトム家に仕えている執事である。

セバ「フローズ様。お迎えに来ましたぞ

病院に向かいましょう。」

フローズ「もう迎えにきたのか 分かつた
じやあなたまた会おう」

フローズは友にあいさつをしセバと共に病院へ向かつた。

美爛「弟か、妹かどつち生まれるのかな」

カル「知らないけど少なくとも俺たちよりは
いづれ強くなるかもなジョトム家だぜ」

そう。ジョトム家は地球の中でも上位の魔力を持ち
生まれてくる家系。三大超魔力家系の1つなのだ

「ジョトム王国 ムールト魔式病院 531号室」

フローズ「もうすぐ生まれるのかな」

セバ「ドクターの話を聞く限りもうすぐ

らしいですぞ」

フローズは自分が兄になることを楽しみにしていた
妹だろうが弟だろうが。誰も彼がいざれ姿を消すことにな
るとは予想すらしないだろう。

フローズは数日前。母と話していることを思い出していた。

「ジョトム城 王妃の部屋 「数日前」」

フローズ「かあさま！ かあさま！」

名前はどうするんですか？」

フローズの母「そうだね。

男の子だったらブラック。

女の子だったらホワイティ」

フローズ「ブラック！ ホワイティ！ 良いね！

でも魔力は凄いのかな」

フローズの母「もちろんだよ。

ジョトム家は素晴らしい

魔力の持ち主なんだから

私を除いてね：」

まだ“このころ”のフローズは
何も気にしていなかつた。

「ジョトム王国 ムールト魔式病院 531号室

〔現在〕」

セバ「本当にもうすぐ生まれるみたいですよ！」

フローズ「楽しみだな！」

あまり詳しくは聞こえなかつたがかあさまと
ドクターの声が聞こえる。

ドクター「もうすぐですよ」

セバにきくかぎりかあさまは

とても頑張つていて： らしい。

ドクター「おめでとうございます！」

王妃様！」

セバ 「ついに生まれた見たいですぞ！」

セバと自分は、かあさまの方に近づいた。

ドクター「立派な男の子ですよー」

フローズの母「良かつた⋮

これからよろしくね ブラック⋮」

↓NEXT STORY